



森市長対談

富山市の未来について聞く



野田聖子衆議院議員と子育て支援について語り合う

街頭演説にて熱く政策を訴える

青年経済団体にて熱の入った県政報告

自民党議員会にて豪雨被害の現地視察・南砺市

優良無花果「立山森の輝き」開発者の齊藤氏と

石井知事と固い握手

石破大臣と地方創生を固い握手

スペシャルオリンピックスのトーチラン

藤井裕久が取り組んでいる課題

子どもたちの未来をつくる

- ・地域に根ざしたPTA活動の支援と活性化
- ・富山らしいふるさと教育・道徳教育の推進
- ・富山の強みである学校教育と地域教育の推進
- ・学校や地域におけるスポーツ環境の整備推進

女性が輝く社会、いきいき長寿社会の実現

- ・女性が活躍できる地域社会・職場環境の整備促進
- ・芸術文化・生涯スポーツ・生涯学習の推進による生きがい創出
- ・がん対策の推進・高度医療態勢の充実

農林水産業の振興は命を守る

- ・安全で美味しい「とやま米」の生産を守り、担い手を育成
- ・1億円産地づくりや、6次産業化の推進による地域ブランドの確立
- ・家庭・学校・地域で取り組む食育と地産地消の推進

かけがいのない自然を未来へ

- ・学校や職場での環境教育の推進
- ・リサイクルの推進による地域循環型社会の確立
- ・とやまの豊かな自然を守るための施策の推進

少子化対策は社会全体の課題

- ・男女の出会いの場の創出による婚活支援
- ・小児医療・保育態勢の充実による子育て支援
- ・母子世帯・父子世帯・多子世帯への支援強化
- ・親であること、出産・育児の素晴らしさを伝える親学の推進

安心安全・助け合う社会が地域福祉の基本

- ・「自助・共助・公助」の精神が息づく地域づくり
- ・地域医療連携・地域包括ケアの推進
- ・医療人材・福祉人材の育成強化
- ・高齢者福祉・障がい者福祉の充実
- ・消防・警察の充実による安全・安心の確保と危機管理の推進
- ・自治会や公民館活動への支援により地域の力・人の繋がりを守る

地域創生待ったなし!

- ・北陸新幹線開通にともなう観光県とやまの推進
- ・農村地域・中山間地域の活性化と振興
- ・地域商工業への支援拡充と雇用の確保
- ・ものづくり県とやまの人材育成と職場環境整備の促進
- ・急激な国際化と地域間競争への対応
- ・老朽化した社会資本の整備促進

私たちには未来をつくる責任がある!!

県議会における所属委員会・部会・議員連盟・調査会等

「県議会委員会」

- ・農林水産常任委員会 副委員長
- ・景気・雇用・金融対策特別委員会 委員

「部会・自民党」

- ・経済建設部会 副部長

「議員連盟・自民党」

- ・日露友好議員連盟
- ・自衛隊支援議員連盟
- ・関東部地域産業活性化議員協議会
- ・ボーイスカウト議員連盟
- ・オイスカ議員連盟
- ・商工会議員連盟

「自民党調査会」

- ・消防調査会
- ・雇用問題調査会
- ・医療問題調査会
- ・農業問題調査会
- ・葉業問題調査会
- ・都市問題調査会
- ・私学教育調査会
- ・水産問題調査会
- ・並行在来線等問題調査会
- ・危機管理防災調査会

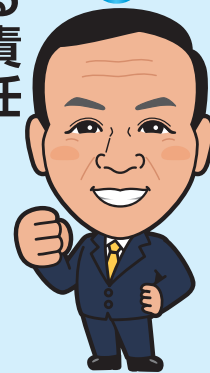
「議員連盟・超党派」

- ・日中友好議員連盟
- ・日韓友好議員連盟
- ・スポーツ振興議員連盟
- ・山村振興議員連盟
- ・砂防促進議員連盟
- ・拉致議員連盟「救う会」
- ・観光振興議員連盟
- ・日台友好議員連盟
- ・南米協会

県政に対するご意見・ご要望をお聞かせください。

〒939-2741 藤井裕久 富山市婦中町中名1606-1 TEL 076-465-7070 FAX 076-465-7071
 ホームページ <http://hirohisa.nakama.to> E-mail fujii@hirohisa.nakama.to

未来を創る責任
 今こそ覚悟のとき!!



皆様には、日頃から温かいご支援をいただき、心から御礼申し上げます。県議会議員に初当選させていただいた平成23年は、東日本大震災が発災した年でありました。同年7月には被災地を視察し、その被害の凄まじさに大きな衝撃を受けました。以来、県民挙げて被災地への支援に取り組んでまいりました。この事件を機に、国や県の施策においても「県民の安全・安心」の観点でのインフラ整備や、再生可能エネルギーの利用推進などについても大きく推進した4年間でありました。その間、教育警務委員会副委員長として青少年を取り巻く諸問題や学校の耐震化などに取り組み、また農林水産委員会副委員長として「全国豊かな海づくり大会」の開催準備や本県農林水産業の振興に努力させていただきました。また、長年の悲願であったイタイタイ病資料館の竣工、汚染田復元事業の完了、被害者団体と原因企業が全面和解に至ったことは、大きな喜びでありました。さて、本年は富山県民の50年来の悲願であった北陸新幹線が開業する年です。この事を今後100年先の富山県発展のスタートラインとし、初心を忘れることなく、命がけで地方議員としての道を精進して行く覚悟です。末筆になりましたが、皆様のご健勝を心からお祈り申し上げますとともに、今後とも変わらぬご指導をいただきますようお願い申し上げます。ご挨拶いたします。

富山県議会議員

藤井裕久 拝

「コンパクトシティ」政策を中心とした富山市地域再生計画」が、国の地方創生モデル事業に認定される。



藤井「お忙しいところありがとうございます。この度、国の地方創生モデル事業に「富山市地域再生計画」が認定されました。いよいよ富山市の推進して来た様々な事業が大きく前進しますね。」

森「昨年12月27日の閣議決定後すぐに募集開始、本年1月14日までの提出でしたが、これまでの取り組みがあったので最初に認定を受けた21団体に入ることができました。認定団体だけが使える交付金を活用できることは大きなメリットです。具体的には3つの事業を提出しました。」

6次産業化の推進で農業と伝統産業の活性化を図る

森「一つは、大沢野の塩地区にある24haの耕作放棄地利用です。大型圃場を造成し「エコマ」を栽培し、オイルを採り、ソフトカプセルに詰める6次産業化計画を提出しました。これを伝統産業である

製菓業界がサプリメントや医薬品に使用するわけです。」

藤井「新しい雇用を生みだし、重労働を伴わないことで特に高齢者が障がいを持つ方の雇用にもつながりそうですね。産官農医福連携の実践ですね。」

森「はい、将来的には、温泉熱を利用した巨大なビニールハウスで全

天候型の植物工場をつくることも考えています。一年中栽培が可能で、軽作業で農業経験のない方でも就労可能な植物工場です。部分的ですが、27年度はできる所からやってみようと思っています。」

藤井「山田村で始まった温泉熱を利用した植物工場の事業例は、全国に先駆けした中山間地活性化の良

藤井裕久 × 森雅志

富山市選出の県議会議員として、そして未来をつくる責任世代として、富山市としっかりタッグを組んで政策を進めていきたいと考えています。そこで市長に、今年、地域創生モデル事業に認定された「富山市地域再生計画」を核とした、これからの富山市の姿について意見を交換しました。

10数年の蓄積があるからできる次の一手だと感じました。」

新図書館とガラス美術館の果たす役割

藤井「まちづくりの象徴として、新図書館とガラス美術館の完成が間近ですが、これらの魅力についてお聞かせください。」

森「特徴は、市立図書館でありながら駐車場が無い点です。地方都市の図書館で駐車場がないということは画期的なチャレンジです。批判もあると思いますが、あえて街中に作り、目の前の電停まで車で来てもらうという狙いです。もうひとつは、新聞を読むコーナーを一階につくり、朝の7時から開けようと思います。たくさんの高齢者や市民に電車であっていただきたいと思っています。その際、図書館の周りには朝のモーニングサービスを出す喫茶店が出来るなど、民間の力を引き出す狙いもあります。また、建物の中に民間のカフェを設けるので、そこでワインのみながら借りた本を読むよ



うな、そんな施設にしたいと思えます。」

藤井「ヨーロッパのカフェのような発想ですね。成熟した長寿社会では、生活の質を高める工夫が必要で、リラックスした雰囲気の中で市民が学習や情報収集したり、交流するための新たな拠点づくりですね。」

森「ガラス美術館の最大の見どころは、6階にシアトル在住のディルチフリーという作家につくってもらったインスタレーションです。今シアトルで製作中。この作品の写真を撮る許可を得ているので、来館者のフェイスブックなどを期待しています。」

藤井「芸術文化の発信基地として「新しい市民の誇り」になりうる施設ですね。」

森「ガラス美術館は全国的にも少ないので、おそらくこの美術館はそうなると思います。ディルチフリーという作家は、アメリカの人間国宝のような人物で、大阪のアメリカ総領事が、「是非オーブ

ニングに参加したい」といわれるので、せっかくなので頂けるのであれば、ケネディ大使に来ていただけないかとお願いしました。」(笑)

藤井「日米友好のシンボルにもなり得るわけですね。富山を全国や世界に発信する機会にもなりますね。ところで、総曲輪西地区の再開発も進んでいます。相乗効果は大きいですね。」

森「総曲輪西地区では、シネコンを誘致しました。映画を観たお客さんが買い物をしたり、美味しい食事とお酒を楽しんでいただければいいですね。」

藤井「県内からも新幹線で来県された方にも公共交通で来ていただいて、ゆったりとした上質な時間を楽しんでいただきたいですね。」

次世代型農業を核とした取り組みを推進

藤井「富山市は中心市街地のみならず、沿岸地域、農村地域、中山間地や山間地など様々な特徴があります。郊外での取り組みをご紹介ください。」

森「一例ですが、郊外では大型植物工場や大沢野の圃場などを核にした次世代型の農業を展開も考えています。」

藤井「郊外での拠点づくりということですね。婦中町普川地区の民間企業が手掛けている、自社の排熱を利用した次世代園芸施設の取り組みは素晴らしいと思います。」

森「3年程前に、アムステルダム

のスキポール空港の近くの植物工場を視察しました。その企業では新規雇用も一挙に50名ほど増えましたが、更に増やすと企業、

き一例ですが、このような既存の施設との連携も大切だと思えます。今度のもっと大規模なものになりますね。」

保育にも対応した地域包括ケアの拠点づくりを

森「二つ目は、総曲輪小学校の跡地を利用した地域包括ケアの拠点施設です。訪問診療や訪問看護、投薬指導などに加えて、病児・病後児の保育に対応した施設です。例えば、保育園でお子さんが熱を返した場合は、お母さんは仕事を早退して迎えに行かなければならぬ。この施設には保育士や医師や看護師もいるので、母親に代わり迎えに行き、この施設で預かります。そうするとお母さんは仕事を終えてから子供を迎えに行けます。これが実現すれば全国で初めてのケースです。」

藤井「私も保育園の運営に携わっていますが、今の例は働くお母さんたちの大きな悩みだと感じています。富山市は子育て支援や高齢者の健康増進に力を入れておられますが、この施設も全国の先進事例になりそうですね。」

GPS機能を利用した高齢者健康管理システム

森「もうひとつが、高齢者健康管理システムの開発です。スマートフォンに昔でいうところの「だまごっこ」のようなものにGPSを備え付けた「おでかけウォッチ」なるものを開発します。試験的に2,000個程を高齢者に持ってもらい、クラウドでデータを集め健康管理に使うと

考えています。」

藤井「移動などのデータ収集のほか、最近では認知症が原因で方向不明になった方の早期発見対策や事故防止にも使えそうですね。」

森「そうですね、ほかにもおでかけ定期券を使っている人の平均歩数や、行動パターン。高校生の移動パターンや、自転車利用者のデータが次の施策に活かされます。京都大学の中川教授と共同開発し、知的保有権を持つことで知的保有権使用の対価を得ることも考えられます。」

藤井「高齢化社会の一助として、全国で利用されるような良いシステムを開発されることを期待します。公共交通を軸にしたコンパクトなまちづくりを推進してきた、



市長は人生を楽しむ天才

藤井「最後になりますが、市長は多彩な趣味をお持ちで、今一番はまっている趣味をお聞かせ願えますか。政策とはあまり関係ないのですが。」(笑)

森「無人で自動空撮できるヘリコプターがあるのですが、今はそれにはまっていますね。趣味も毎年目標をもってやっているので、他に乗馬、ヨット、スキューバダイビングなど…失業したときのために限定解除した運転免許も持っていますよ。」(笑)

藤井「まさに仕事の天才でもあり、遊びの天才でいらっしゃるんですね。これからもお元気で活躍ください。本日は長時間ありがとうございました。」

平成26年2月 富山県議会 予算特別委員会質問



「競技者育成プログラム」を作成し指導方法を統一、ジュニア期から計画的に選手を育成している。医学的サポートにより得られたデータを活用するなど、今後とも各競技団体と連携し一貫指導体制の充実を図る。

問1 「ものづくり産業の振興」について

(1) 県内製薬企業の製剤開発・創薬研究支援について、問う。

厚生部長 ①高い製剤技術力を更に伸ばし新規製剤開発の促進、②ベツリンやワクチン効果増強剤の早期実用化に向けた研究の加速、③製剤技術力を持つ薬学生育成を強化し、さらなる「薬都とやま」の発展に向け積極的に取り組む。

(2) 本県の薬業が1兆円産業に成長するための支援策について、問う。

厚生部長 医薬品産業成長のため、人材育成強化に取り組む。平成26年度は、スイス・パーゼルの研究者とのシンポジウムを本県で開催、富山大学の伝統医薬に関する国際シンポジウムに助成、また県内研究者や学生の参加によりグローバル人材の育成を図る。



薬都とやまを代表する売薬の薬

問2 「未来を担う人づくり」について

(1) トップアスリート育成のためのスポーツ指導者の指導力向上について、指導者の指導力向上と育成が必要と考えるが今後の予定について、問う。

教育長 新たに実施する「アスリートマルチサポート事業」の中で、指導者を対象としたメンタルトレーニングや体カトレーニングの講習を行う。

イ・スポーツ指導の一貫指導体制の現状と今後の取組みについて、問う。

教育長 一貫した技術指導を行うため、年代別カリキュラム等からなる

問3 「産業観光の振興」について

「産業観光」について、ストーリー性と感動のあるコースにブラッシュアップすべきと考えるが、問う。

観光・地域振興局長 修学旅行誘致用ガイドブックに本県産業史やエネルギーについて学ぶコースを掲載し、首都圏の旅行会社等に情報発信している。引き続き企業側の受入体制整備を促進し、観光連盟による試行販売ができるよう、組織強化を進める。



北陸新幹線開業PRのマスコットキャラ「ぶりと君」

平成26年6月 富山県議会 本会議一般質問



問1 県民の安全・安心について

(1) 特殊詐欺や悪質商法の被害防止のため、「消費者教育」を広く継続的に進める必要があるが取り組みを、問う。

生活環境文化部長 消費者教育推進計画を今年度中に策定し、県民の皆さんが、自ら考え行動できる力を身に付け、自立した消費者になることができるよう取り組む。

(2) 交通弱者の事故防止対策について、把握している危険箇所に対する問題点解消の進捗状況と、歩道の整備や交差点のカラー舗装の推進について、問う。

土木部長 対策を行う10箇所のうち、平成25年度未だに70箇所完了し、今年度は4箇所完了する。残る27箇所は、踏切拡幅に伴う鉄道業者との協議が必要であり、完了に時間を要している。今後とも、歩道の整備や交差点のカラー舗装、路面のカラー化等により、歩行者などの安全な通行を確保し、点字タイルの設置や段差の解消など、ユニバーサルデザインに配慮した道路整備にも努める。

(3) 認知症による行方不明者や徘徊の現状と対策について



高齢者と子どもにやさしい街づくりに向け、カラー塗装された舗装道路

の早期発見への取組み、関係機関の連携の現状はどうか、また今後どのように取り組むのか、問う。

厚生部長 市町村では、「徘徊・見守り SOS ネットワーク」の構築に取り組んでおり、平成25年度には県全体で61名と、相当数の発見につながっている。また、警察では、より検索項目の多い「身元確認照会システム」も活用すると聞いており、早期発見につながるものと期待している。今後、各市町村で進められる、認知症初期集中支援チーム、認知症地域支援推進員の設置についても支援し、認知症の早期発見・早期対応に努めていく。

問3 本県教育の推進について

(1) 大学コンソーシアム富山の活動状況と今後の取組みについて、問う。

経営管理部長 ①単位互換の実施、②合同企業訪問、③知的資源を活用した地域課題の解決など、幅広く



平成25年4月に「大学コンソーシアム富山」が発足

問2 行政改革による財政再建の推進について

これまでの行政改革に対する評価と、たゆまぬ行政改革に取り組むにあたり、意気込みを問う。

知事 この9月の取組みに対して、昨年度の行政改革会議の報告で、「着実に成果を挙げている」と評価もいただき、それなりの前進があったと考える。県庁がスリムで効率的、総合的な組織になり、県の元気が発展、県民の皆さんの幸せの充実に寄与するよう、県議会の皆さんのご理解とご協力を得ながら、「元氣とやまの創造」を目指していく。

の実現に向けた調査・研究や、現状認識と問題の把握、中長期的な計画について、問う。

教育長 障害のある者でない者が共に学ぶことができる環境づくりを目指し、志貫野高校をモデル校として、生徒の障害の種別や程度に応じた「合理的配慮」の内容や指導の在り方について実践研究を進めている。志貫野高校や全国の事例を参考にし、教育的支援の取組みが充実するよう努める。

イ・インクルーシブ教育システムの実現にむけ、小学校教諭の負担軽減にどのように対応するのか、問う。

教育長 「こやま学校パワーアップ推進事業」により、教員の負担軽減を図る取組みが各学校で取り組まれるよう支援する。

(4) 本県の生涯学習の現状認識と推進策、本県の重要政策「人づくりにかける思い」について、問う。

教育長 県民の生涯学習意欲は全国的にも高い。知識・技術を仕事や趣味に活かし、地域に貢献することは、「元氣とやま」の創造のため重要な

(1) PM2.5について、県民への注意喚起や対応についての取り組みを、問う。

厚生部長 自動測定器を順次設置し、早期に注意喚起できる体制を整えた。注意喚起は、直ちに公表し速やかに関係機関に連絡するほか、テレビやラジオ等により幅広く周知する。健康面でも、厚生センター等に相談窓口を設置し、今後も監視体制

問4 県民の安心安全について

の強化等に努める。

(2) 環境先端県として、環境保全の取組みを更に進め、国内外に情報発信すべきだが、問う。

生活環境文化部長 これまでの取り組みは、先進的でモデル的・高く評価をいただいている。全国豊かな海づくり大会や全国植樹祭においても、本県の環境面での取り組みを国内外に積極的にアピールする。

希少種捕獲による減少防止と生息地の保全を図ることが可能である。さらに、保護に識見を有する方を「希少野生動物保護監視員」に任命し、県民と連携した希少種の保護活動を行う。これまでの取組みに加え、この条例を極力活用し、将来にわたって生物多様性を保全していくよう取り組む。

イ・ナチュラリストの更なる育成が必要であるが、現状と今後の予定はどうか、問う。

生活環境文化部長 「本県の自然解説は、わかりやすくレベルが高い」と、高評価を受けている。養成は、3年に1度開催の養成講座を修了した者を知事が認定（累計72人を認定）、うち32人が実地活動に従事している。今年度は新たに60人程度認定したい。平成33年度までに、累計900人を認定したいと考える。現役のナチュラリストに対して研修会を年3回開催しており、今後とも質の高いナチュラリストの育成に努める。

(4) 本県の自然環境と生物多様性の保全について
ア・「富山県希少野生動物保護条例」を活用した保護対策にどのように取り組んでいくのか、取組みにあたっての県民との連携も含めて、問う。
知事 今議会に「富山県希少野生動物保護条例案」を提出した。罰則を設けることで実効性を確保、



富山県のナチュラリストによる自然解説は、わかりやすくレベルが高いと評価を得ている



20~30代の青年と富山と日本の将来を熱く語り合う

平成26年11月 富山県議会 予算特別委員会質問

問1 産業の育成と雇用について

(1) 農地中間管理機構による農地の利用権設定の進捗について、問う。 農林水産部長 県では、228地域の農地について借受希望者を募集し、217地域に延べ1720経営体から応募があった。また、出し手と受け手のマッチングを進め、10市町村の約730haの農地を、借り受けを希望する70経営団体に貸し付けることとしている。

(2) 航空機産業の共同受注体制の構築など、新しい産業育成の取り組みを、問う。 商工労働部長 大規模な国際商談会「エアロマーケット」へ県内企業が参加し、多様なニーズがあることを把握した。企業が連携し共同受注に結びつくことを期待し、共同受注グループの形成に向けて支援していく。

(3) 「一般事業主行動計画」の策定対象の範囲の拡大を検討しているが、今後の取り組みを、問う。 商工労働部長 小規模企業にとっては負担を伴うため、経過措置などの十分な周知期間やきめ細やかな策定支援が必要。今後、「仕事と子育ての両立に関する意識調査」の結果や、県議会、子育て支援・少子化対策県民会議で理解があれば、検討する。



北海道立中央農業試験場岩見沢試験地にて米の品種改良について視察



問3 富山湾岸サイクリング大会について

(1) 湾岸サイクリングコースについて、大人から子供まで、ベテランからビギナーまでが楽しめるコースに早期に整備すべきであるが今後の取り組みを、問う。 土木部長 氷見市から朝日町に至る約88kmを設定し、平成27年春の完成を目指し整備している。今後、関係者の意見に基づき、路面表示の追加や距離標の追加などを行う。

(2) 「世界で最も美しい湾クラブ」に加盟した富山湾を巡る全国的なサイクリングイベントを開催し、富山県をさらにアピールすべきと考えるが、問う。 知事 ご提案のイベント開催は、富山の魅力のアピールや国内外の誘客

促進だけでなく、スポーツ振興にもつながると考える。一方で多くのスタッフやボランティア、協賛企業の確保など課題もある。富山を元氣



「世界で最も美しい湾クラブ」加盟を記念して今年4月に開催される「富山湾岸サイクリング2015」のチラシ

問2 再生可能エネルギーと省エネルギー対策の推進について

(1) 小水力発電について、設置者である県の取組みや企業・土地改良区の参入の現状と推進策について、問う。 商工労働部長 現在運転中は24箇所、うち企業局も含め県が7箇所、土地改良区は6箇所、民間企業は7箇所、県内自治体は4箇所。県として、国の交付金を活用した補助、工事受託や技術指導を積極的に支援している。今後も普及啓発に努め設置を促進する。

(2) 県が民間と協力し、自然エネルギーを取り入れたまちづくりや住宅づくりを推進すべきと考えるが、問う。 知事 YKKのバッシングタウンは、低炭素なまちづくり・家づくりのモデルである。県では、再生可能エネルギーを活用した新たなまちづくりを促進する必要があると考える。県内では、南砺市や宇奈月町でも再生可能エネルギーを活用した地域づくりが進められており、市町村と連携協力しながら引き続き幅広く支援していく。



小水力発電施設の視察で都留市を訪れる

問4 ライチョウの保護について

(2) 本県のライチョウの保護活動や生息地の環境保全の取組みの現状はどうか、問う。 生活環境文化部長 ①アルペンルートのマイカー規制や高原バスの低公害化②生息域を保護するための柵の設置③室堂地区におけるスキー規制区域の設定④高山植物の復元⑤ゴミの減量化や環境配慮型トイレの整備⑥自然解説を通じた観光客の意識啓発などに取り組んできた。来年4月には「立山におけるバスの排出ガスの規制に関する条例」が施行され、引き続き取り組んでいく。

促進だけでなく、スポーツ振興にもつながると考える。一方で多くのスタッフやボランティア、協賛企業の確保など課題もある。富山を元氣

任期中に自民党富山県議会議員会から議員提案し成立させた県条例

富山県がん対策推進条例

平成24年12月12日 富山県条例第92号

(目的) がんが県民の生命、心身の健康及び生活にとって重大な問題となっている現状にがんがみ、市町村及びがん医療に従事する者と協力し、県が策定するがん対策推進計画の実効性を確保しつつ、がん対策を総合的かつ計画的に推進することを目的とする。



富山県歯と口腔の健康づくり推進条例

平成25年9月30日 富山県条例第46号

(目的) 県民の歯と口腔の健康づくりについて、基本理念を定め、県、市町村及び県民の責務並びに歯科医師等、教育関係者等、医療保険者及び事業者の役割を明らかにし、総合的かつ計画的に推進することを目的とする。

障害のある人の人権を尊重し県民皆が共にいきいきと輝く富山県づくり条例

平成26年12月17日 富山県条例第77号

(目的) 障害を理由とする差別の解消について、基本理念を定め、並びに県及び県民の責務を明らかにするとともに、障害を理由とする差別の解消に関する施策の基本となる事項を定めることにより、すべての障害のある人が安心して暮らすことのできる社会の実現に寄与することを目的とする。



視察・研修会報告



自民党経済建設部会視察 FOB小沼所長から世界の人口増加と食糧不足についてレクチャーを受ける



自民党経済建設部会視察 ESCAP事務所にて、村田次長、澤井氏、天沼氏と



富山県観光議員連盟視察 富山県への観光客誘致のため台湾観光協会へ要望活動



高橋はるみ北海道知事と観光戦略について議論する



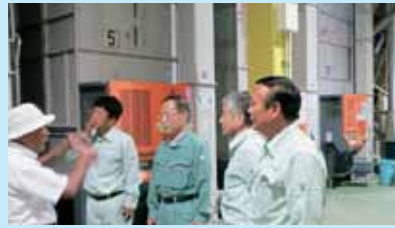
宮城県岩沼市にて千年希望の丘を視察 岩沼市前市長 井口氏と



伊豆沼農産の「伊達の赤豚」ブランド戦略を視察・伊藤社長と



県土木・速星自治会と坪野川を視察



農業問題調査会にて米の乾燥調製施設を視察



県畜産試験場の検査状況を視察